



▲ワルワラ・ブブノワ《版画》特種製紙株式会社蔵



▲▼今和次郎撮影《開進食堂》工学院大学建築学科今和次郎コレクション蔵



▲柳瀬正夢《読め! 無産者新聞》ポスター 武蔵野美術大学美術資料図書館蔵

刊行の辞

おむかしはる
五十殿利治 (筑波大学人間総合科学研究科教授)

近代美術史に関する基本的文献資料、特に展覧会目録と美術雑誌は、近年さかんに復刻がなされており、全般的な研究の基盤の厚みを大きく補強することとなった。本書もまた近代美術史の一美術運動についての基本情報を提供する資料集成である。

大正期新興美術運動については国内外で注目されており、アメリカでも有力な大学出版部から専門書が刊行されるほどである。展覧会としては、国外ではデュッセルドルフ美術館における「日本のダダ」展(一九八三)やパリのポンピドゥー・センターでの大規模な「前衛の日本」展(一九八六)、また国内では東京都美術館における「一九二〇年代・日本の芸術」展(一九八八)を筆頭に、神奈川県立近代美術館とシドニーのニュー・サウス・ウェールズ州立美術館で開催された国際展「モボ・モガ」展(一九九八)など、この二十年間において相当数の展覧会が開かれ、着実に一般の認識も拡大している。

ところが、この運動に関わる作品はもとより文書資料が希少であり、特に展覧会目録など、研究の基盤となる資料はいぜんとしてほとんど公刊されていない状態である。本書では、こうした関係文書の翻刻に努めるとともに、たとえば会場写真などを配することにより、個々の展覧会を立体的に把握できるように構成した。この時代の専門的な研究者はむろんのこと、一般の近代美術史の研究者、さらには美術愛好家にも、大正期新興美術運動についての理解を広め、この運動の近代美術史上における位置づけをさらに確かなものとすることを目指している。

大正期新興美術運動の全貌を明らかにする決定版資料集

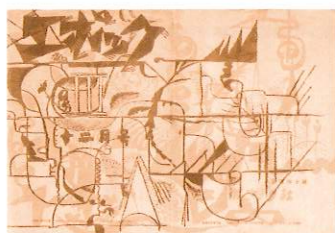
約六〇〇点の主要作品をカラー口絵で紹介するとともに、主要な展覧会を年表形式で詳述。年表では、展覧会目録・宣言書等の文献資料を網羅し、展覧会出品作を当時の雑誌等に掲載された図版により可能な限り再現した。さらに当該分野の研究者による最先端の論考により、現在の研究水準を明示した。

● 取り扱い範囲 ●
一九二〇年(大正九)～一九二八年(昭和三)

● 構成 ●
図版編……主要作品をカラー口絵で約六〇〇点収録。
資料編……展覧会目録・宣言書をはじめとする文献資料を翻刻し、展覧会出品作や目録書影、会場写真を当時の新聞・雑誌記事等により再現。
研究編……研究者による最新の論考を収録。
附録……関連文献目録・主要作家略歴・人名索引等。

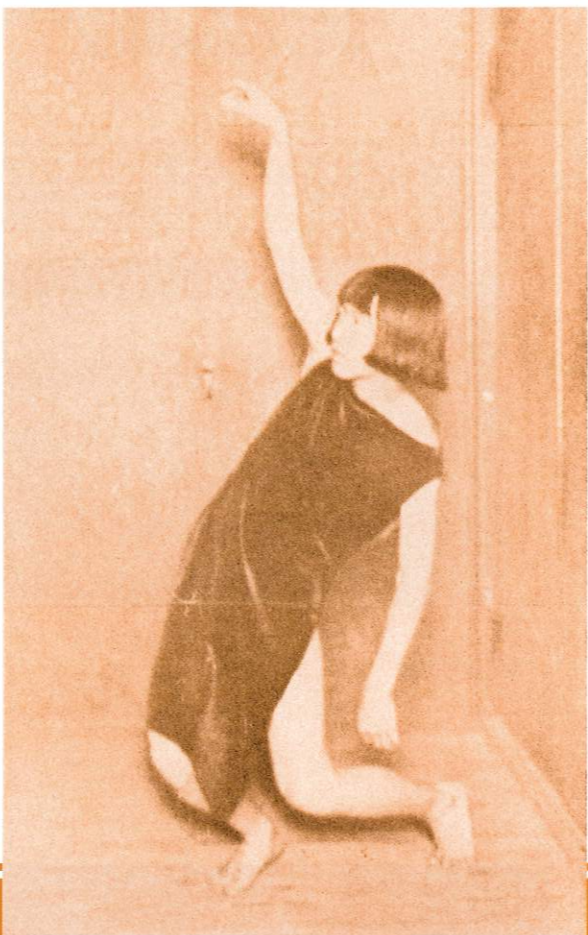


▶ブルリユーク(富岳 少女、犬、静物)星野面蔵蔵



▲五村善之助《科学者の万華鏡》【エポック】第3号表紙・裏表紙 宮城県美術館蔵

▼村山知義《フムメルのワルツを踊つてゐる私》



▲村山知義装幀 エルンスト・トラー・詩、村山知義訳『燕の書』表紙 町田市立国際版画美術館蔵



▲村山知義装幀・著『現在の芸術と未来の芸術』表紙 町田市立国際版画美術館蔵



▶吉原吉『日本未来派宣言運動』ビラ 日本近代文学館蔵

主要収録作家

浅野孟府 阿部貞夫 荒木留吉 有泉讓 井上富峰 大浦周蔵 大場清泉 岡田龍夫
岡本唐貴 尾形亀之助 荻島安二 尾竹竹坡 加藤正雄 河辺昌久 神原泰 木下秀
一郎 古賀春江 後藤忠光 佐藤日梵 佐藤八郎 沢青鳥 重松岩吉 渋谷修 城山
吐峰 住谷磐根 高木長葉 高見沢路直 田中一良 玉村善之助 東郷青児 戸田
達雄 中川紀元 仲田定之助 中原実 永田脩 永野芳光 萩原恭次郎 浜田増治
原弘 普門暁 牧寿雄 村雲毅一 村山知義 柳川槐人 柳瀬正夢 矢橋公麿 矢部
友衛 山本行雄 横井弘三 横山潤之助 吉田謙吉 吉郷二郎 和達知男 パリモフ
ブブノワ ブルリユーク リュバルスキー 他総一六〇余名